

●ミュンヘン市との姉妹都市提携

この昭和47年の夏には、西ドイツ（当時）のミュンヘン市でもオリンピックが開催されました。それが縁となり、札幌市とミュンヘン市は、同年8月28日に姉妹都市の提携を行いました。オリンピックで結ばれた両市は、友好を深め、協力して世界平和と親善に大きく貢献することを誓い合いました。ミュンヘン市は、札幌と同緯度にあり、気候風土も似ています。世界的なビール生産地であり、ミュンヘン交響楽団も有名です。

（資料：第11回オリンピック冬季大会札幌市報告書）

●手稲会場の模様

手稲山では、アルペン種目の大回転・回転競技、ボブスレー競技、リュージュ競技が行われました。大回転コースは、手稲山頂から、北北西へ男子コース、北東へ女子コースが造られました。回転コースは、手稲山第二峰（標高八百三十九メートル）の北西斜面に造られました。スタートからゴールまで視界をさえぎるものがない恵まれたコースです。これらのうち、女子大回転コースと回転コースは、テイ

記念展示品



▲実際に使用された2人乗りボブスレー



▶小林優子選手から寄贈されたリュージュとユニフォーム



■お問い合わせ先
札幌ウインタースポーツミュージアム
札幌市中央区宮の森1274番地
（大倉山ジャンプ競技場内）
☎631-2000

■休館日 毎月最終火曜日（祝日の場合は翌日水曜日）、年末年始（12/29～1/3）

ネハイランドスキー場にあり、今も滑ることが出来ます。一方、日本初の公式コースとなったボブスレーコースは、通称千尺高原といわれる山の中腹の北斜面に、また、その隣に造られたリュージュコースは、全長千四百四十メートル、標高差百一メートルを誇りました。この競技では、男子二人乗りで荒井・小林組が四位、女子一人乗りで大高優子（現小林優子）選手が五位に入賞する健闘を見せました。また、大会の裏方として活躍した、手稲の人々のことも忘れられません。

茶の温かい飲み物を出した人。また、会場係として人知れず深夜にコースを整備した人や、観客の整理などを担当した人など、オリンピックを支えた人を挙げればきりがありません。このような裏方で活躍した人々も、立派なオリンピック参加者です。『あのころを思い出すと、胸がジーンと熱くなる』、『オリンピックを契機にボランティアの機運が高まった』。手稲では、今でも懐かしそうに語る方が少なくありません。

（参考文献）
第11回オリンピック冬季大会札幌市報告書
さっぽろ文庫16 冬のスポーツ

こぼれ話
拜啓 札幌市長様

テレビで観戦していた世界各国の多くの人々から、感動の手紙が組織委員会に寄せられました。その中から一つを紹介いたします。

オリンピック大会に感動したので、お礼の手紙を差し上げます。競技、計画、実行、美術・音楽、すべてが今までになく素晴らしかった。ブランド・デュー・シー・会長（当時）が、ワシントンポストで述べた言葉を引用します。『札幌以上のことをするのは、難しいだろう。』テレビに映った皆さんや、裏方で働いた皆さんにお礼申し上げます。
ウィルムート・ホルト夫妻